
経済理論 I (マクロ経済学)

柳原 光芳

第13回

第8講: IS-LM分析: その1

(第13・16章)

- IS曲線はどのように導出されるか？
- LM曲線はどのように導出されるか？
- IS曲線とLM曲線の交点は何を意味するか？

8. 1 IS-LM分析とは

(1) IS曲線

(Investment & Savings)

投資・貯蓄均衡 = 財市場均衡 をあらわす

Yとrの組み合わせ


(2) LM曲線

(Liquidity Preference & Money Supply)


流動性(選好)・貨幣供給均衡 = 貨幣市場均衡

をあらわすYとrの組み合わせ

(1) 財市場均衡

- 財の総供給 $Y^S \equiv Y \neq \bar{Y}_f$
 - 財の総需要 $Y^D \equiv C(Y - T) + I(\bar{r}) + G$
 - 財市場均衡 $Y = Y^S = Y^D \neq Y_f$
-  Yとrの関係が決定

(2) 貨幣市場均衡

- 貨幣供給(実質) $M^S \equiv M / P$
 - 貨幣需要(実質) $M^D \equiv L(Y, r)$
- 貨幣需要 = 取引需要 + 資産需要
- 貨幣市場均衡 $M / P = L(\bar{Y}, r)$
- (P=1と以下仮定)  Yとrの関係が決定

(3)貯蓄・投資バランス

■ 財市場均衡

$$Y = C(Y - T) + I(r) + G$$

$$S \equiv Y - T - C(Y - T)$$



$$I(r) + G = S(Y - T) + T$$

具体的には

$$I(r) + G = (1 - c)Y + cT - \bar{C}$$

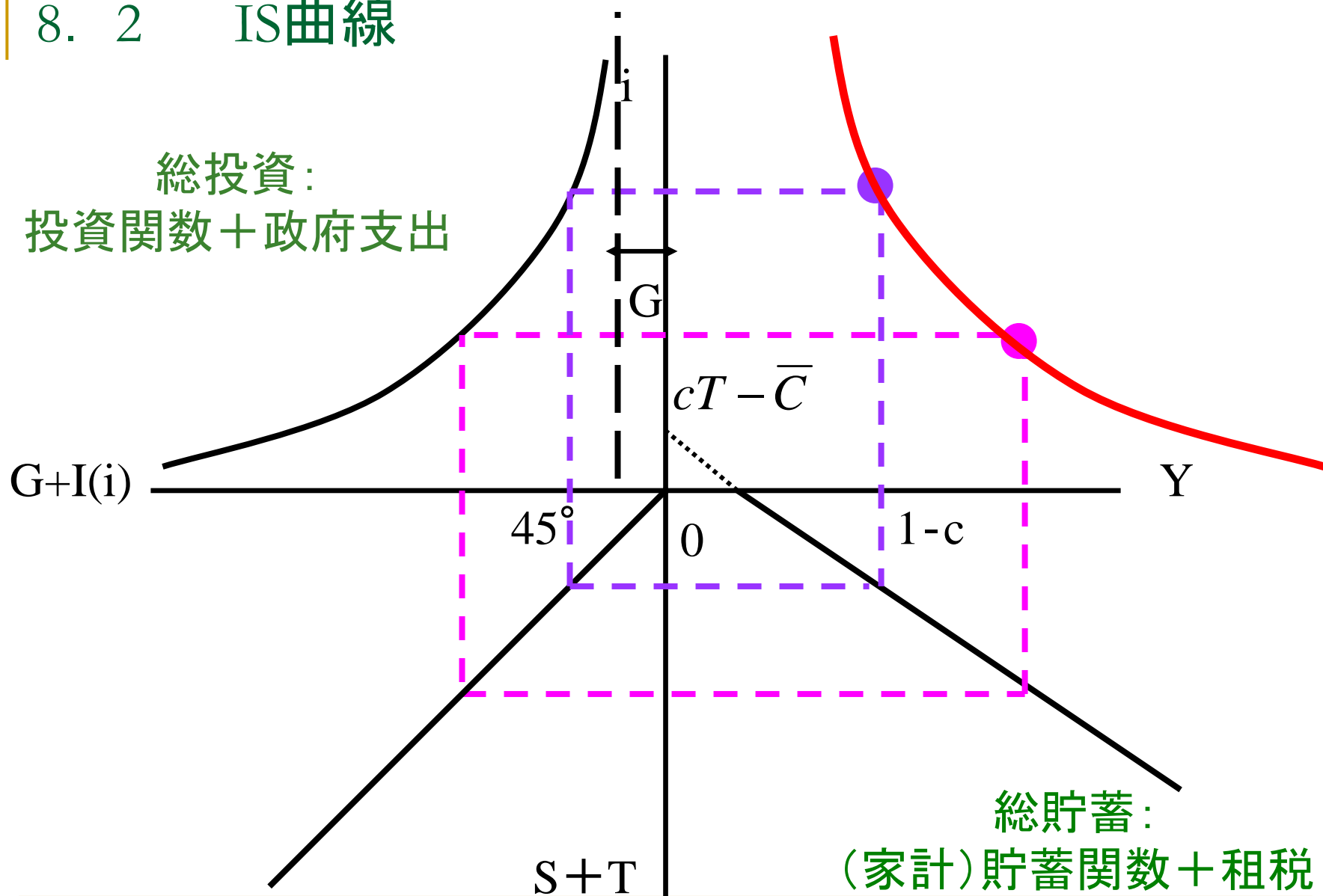
これを貯蓄・投資バランスといい、これを縦軸利子率、横軸生産量でとったグラフをIS曲線という

$$M = L(Y, r)$$

■ 貨幣市場均衡

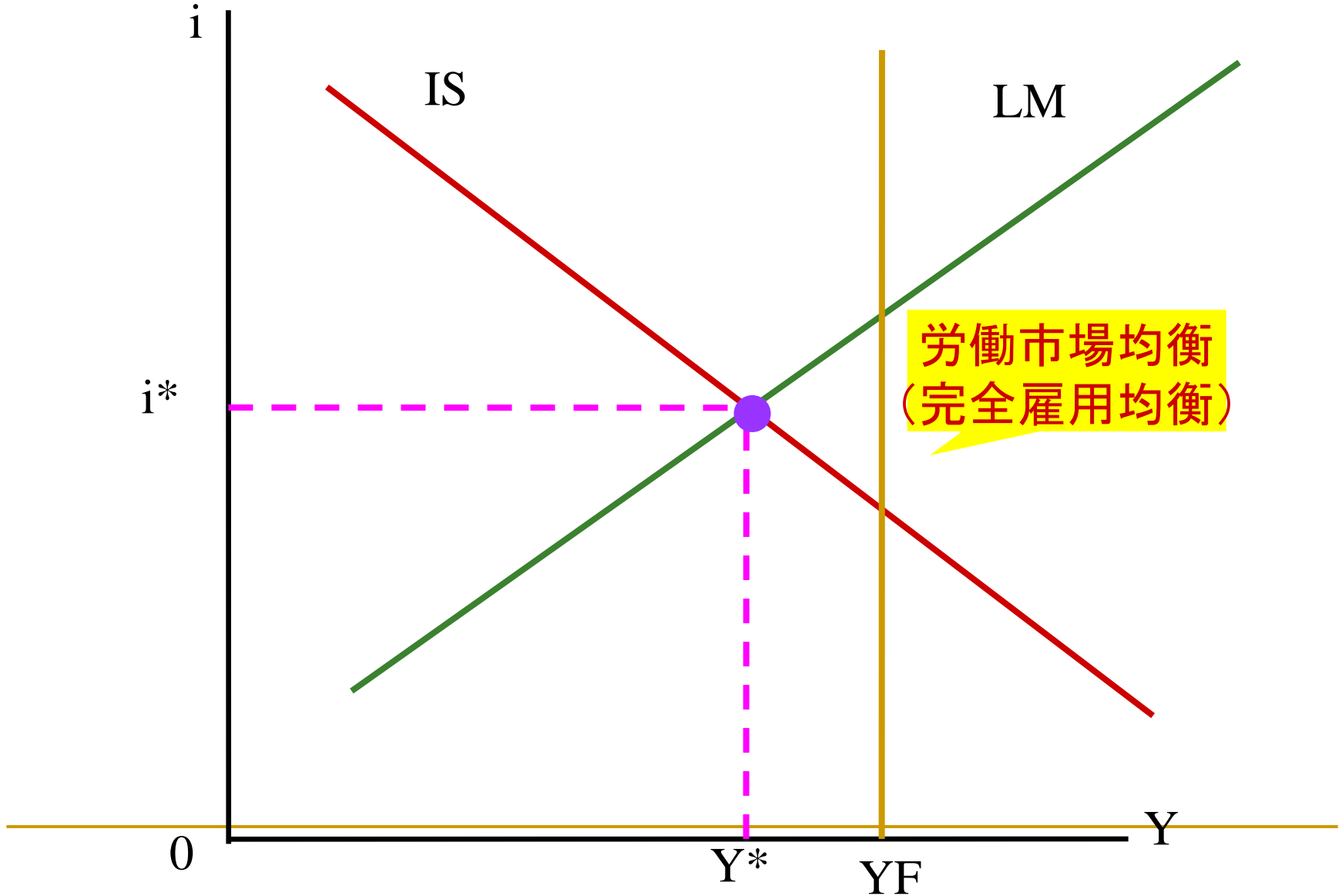
これを縦軸利子率、横軸生産量でとったグラフをLM曲線という

8. 2 IS曲線

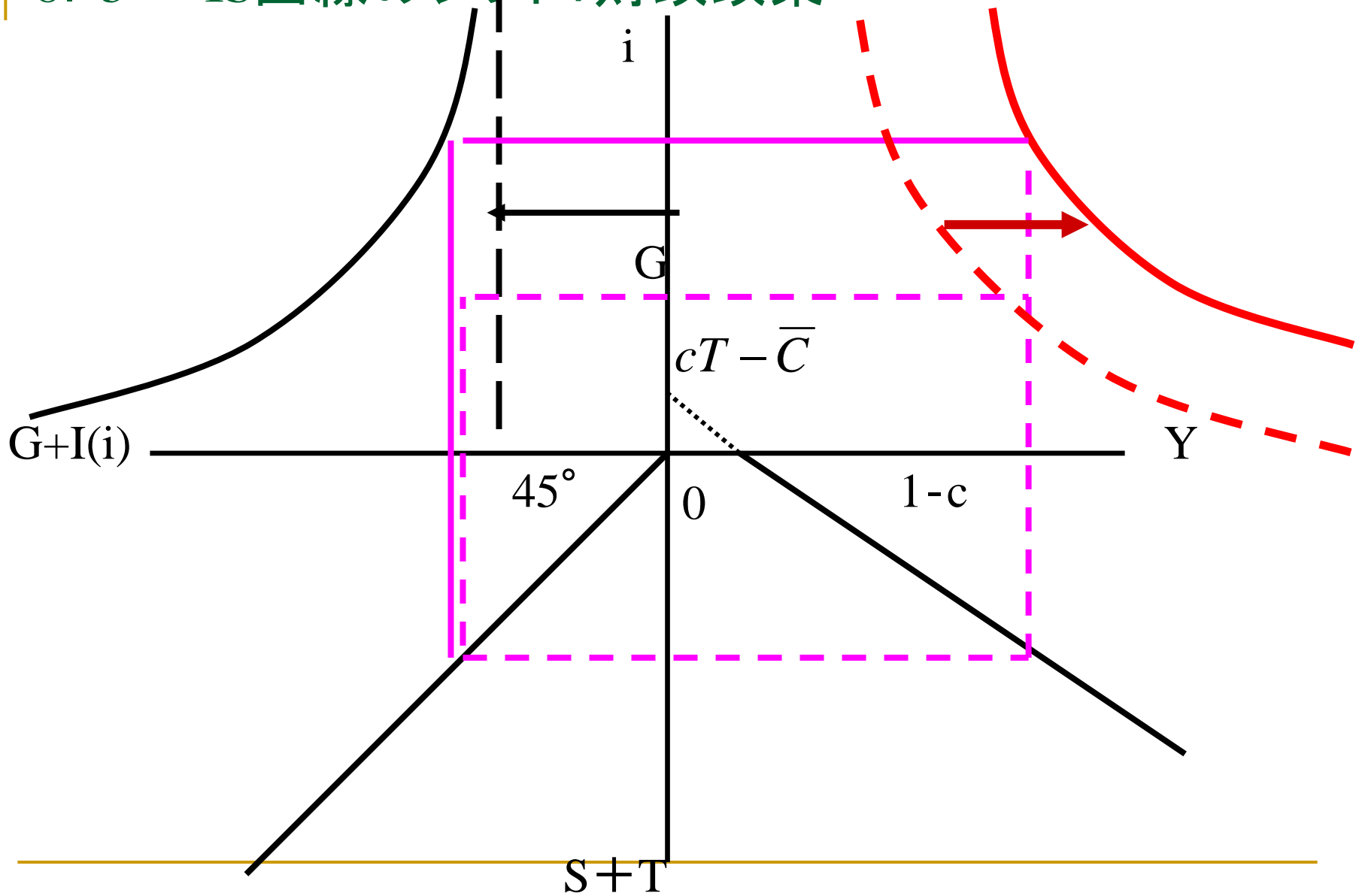


8.4 IS-LM分析

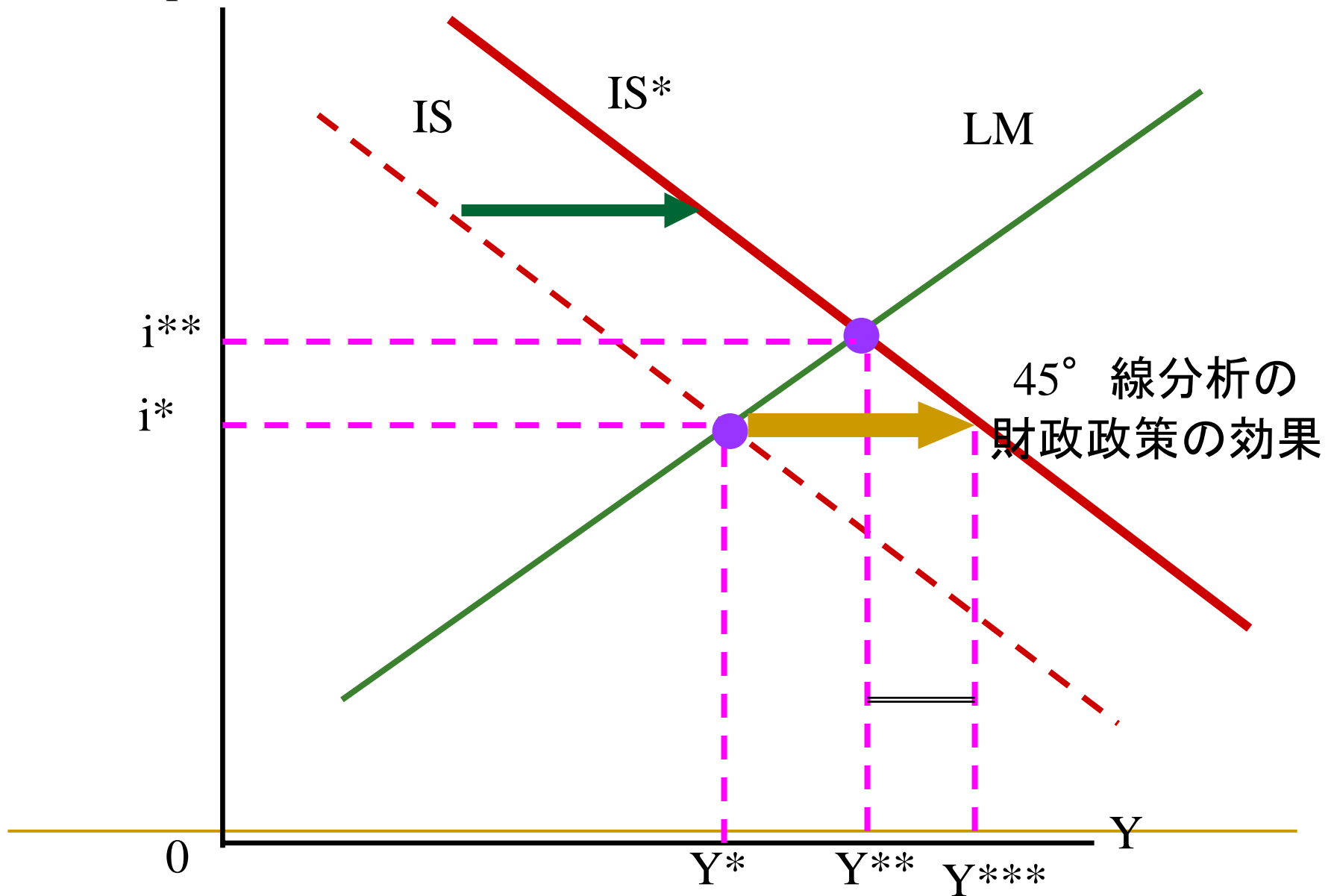
財・貨幣市場の同時均衡



8.5 IS曲線のシフト: 財政政策



8.6 IS曲線のシフト: 財政政策



8. 7 IS曲線のシフト: 財政政策

■ 財政政策:

- 政府支出 (G) の増加
- 租税 (T) の減少

 IS曲線の右方シフト

効果

① Y^* の増加

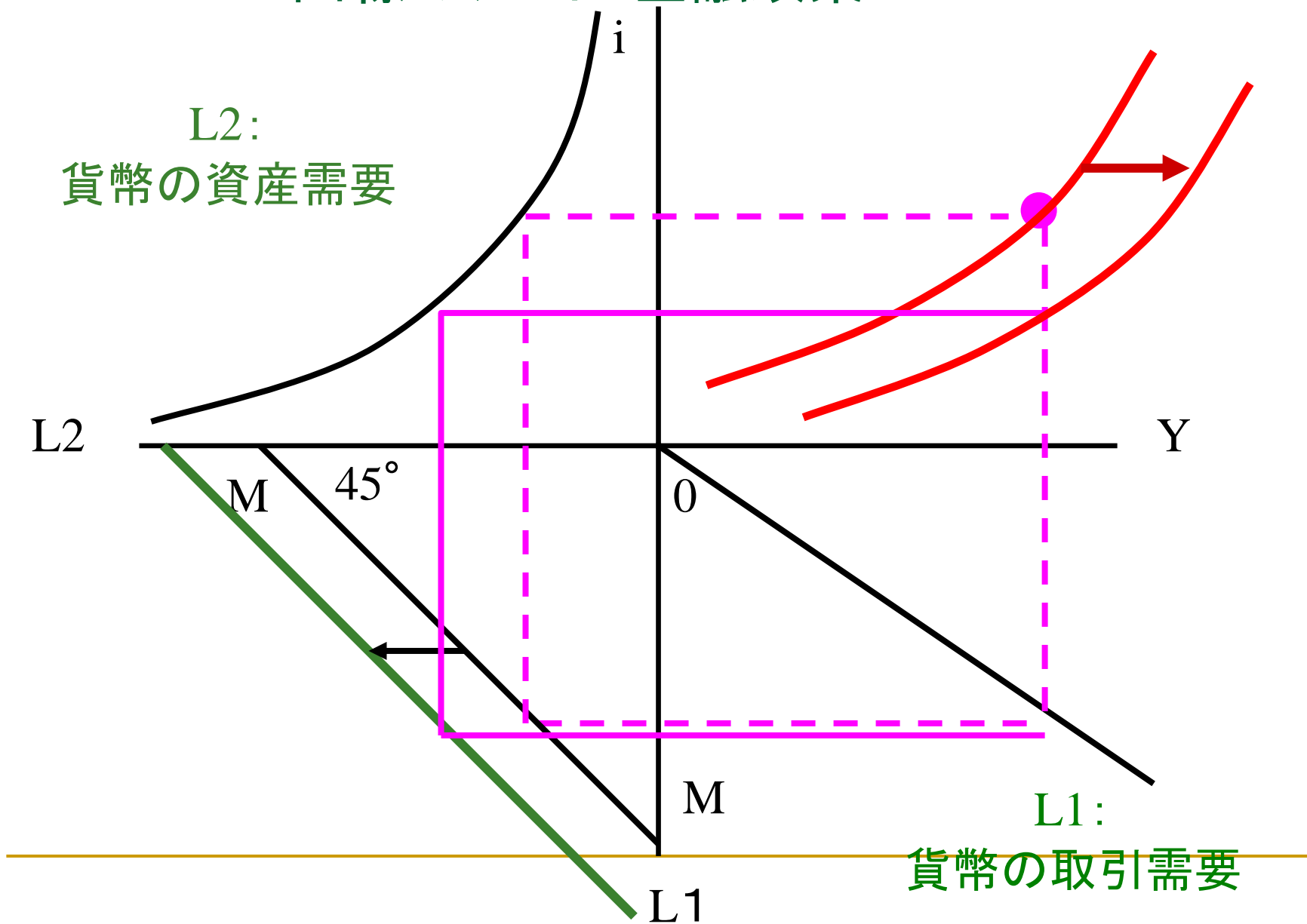
② i^* の上昇 \Rightarrow $I(i)$ の減少 = 「おしのけ」

クラウディング・アウト

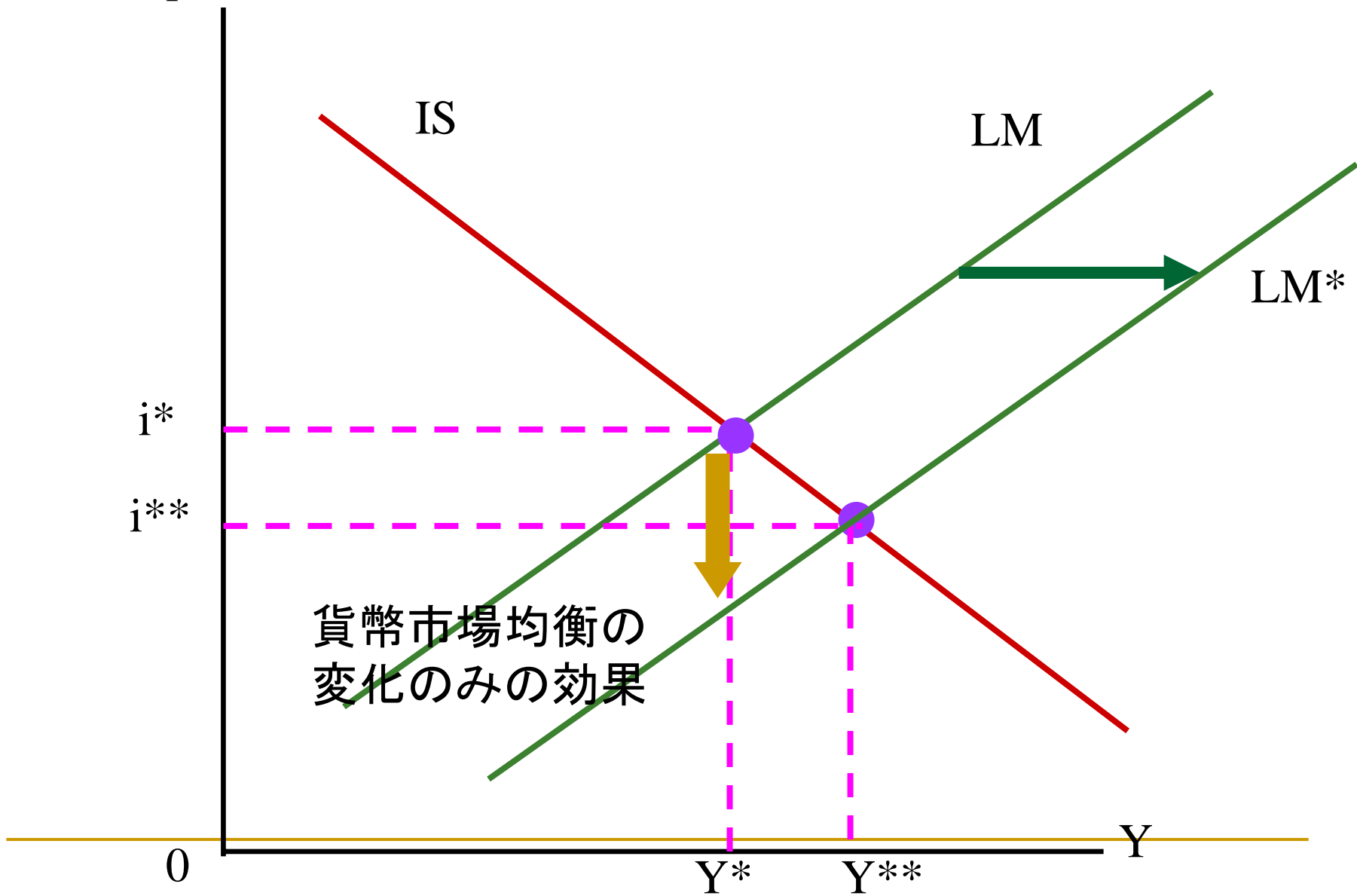
※ 利子率上昇による乗数効果の低下

= ヒックス効果

8. 8 LM曲線のシフト: 金融政策



8. 10 i LM曲線のシフト: 金融政策



8. 10 LM曲線のシフト: 金融政策

■ 金融政策:

- マネーサプライ(M)の増加

LM曲線の右方シフト

効果



① Y^* の増加

② i^* の低下 \Rightarrow $I(i)$ の増加